

浜の活力再生プラン
令和8～12年度
(第3期)

1 地域水産業再生委員会 (ID:1109007)

組織名	千葉県地域水産業再生委員会内湾地区部会
代表者名	内湾地区部会長 佐久間 國治 (富津漁業協同組合代表理事組合長)

再生委員会の構成員	市川市、船橋市、金田、新木更津、富津、新富津、天羽の各漁業協同組合、市川市、船橋市、木更津市、富津市の各水産主務課、千葉県(水産課、漁業資源課)、千葉県漁業協同組合連合会
オブザーバー	千葉県水産総合研究センター

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	富津市新富津地区(新富津漁協の地区内) ノリ養殖業 29 経営体 (令和7年4月1日現在)
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>【千葉県ノリ養殖業の現状】</p> <p>県内ノリ養殖業の経営体は、平成24年度には285経営体であったが、令和6年度は93経営体と著しく減少しており、減少の要因は不作に伴う廃業の増加、生産者本人や家族労働者の高齢化等が挙げられる。</p> <p>生産量は、平成14年度漁期には過去最高の5億枚を生産したが、直近5年(令和2年度漁期～令和6年度漁期の平均値)においては8千万枚程度まで減少している。原因は経営体数の減少のほか、高水温化や貧栄養化など海洋環境の変化に加え、クロダイ等による食害が影響している。</p> <p>養殖規模は廃業した経営体の柵の割当てや省力化を進め、令和6年の経営体当たりの柵数は233柵/経営体であり、30年前(平成8年)の153柵/経営体から、約1.5倍程度となっているが、近年は労力及び施設能力的に限界に達し、横ばい傾向である。</p> <p>極端な不作となった平成27年度漁期以前は、年によりばらつきはあるが、生産金額は23億円から48億円程度で推移(平成17年～26年度漁期の値)していたが、近年は生産枚数の激減により生産金額が伸び悩んでいる。令和6年度漁期については、全国的な不作から単価が上昇し、生産金額は22億円程度となった。</p>

本県のノリは全国の中でも高単価で取引されてきたが、高価格帯の贈答用需要から中低価格帯のコンビニ等の業務用需要への変化や食の多様化、さらには低価格の中国・韓国の外国産ノリの輸入量増加などの影響を受けて、平均単価は長期的に下降傾向にある。近年、生産枚数が激減していることにより平均単価は高めで推移しており、令和 6 年度漁期は乾海苔 1 枚当たり 25.7 円にまで上昇したが、市況は全国の生産状況等により影響を受けるため、今後の動向は不透明である。

ノリ養殖業は本県の魚種別生産金額の上位に位置し、東京湾内湾漁業の基幹産業であるが、経営体の減少や高水温等の養殖環境の悪化、魚類による食害等により、漁家経営は非常に厳しい状況にあることから、陸上加工施設の共同利用の推進による生産性の向上、操業の効率化や省エネ機器の導入によるコスト削減などに引き続き取り組む必要がある。

【新富津地区ノリ養殖の現状】

県内産ノリの約 5 割近くを生産している新富津地区においても、高齢化等を理由とした経営体の減少や生産コストの高止まり、年内生産期の生育不良等による生産量の減少に悩まされている。このため、当地区では浜の活力再生プランを平成 27 年度に策定し、ノリ共同加工施設や高速浸漬処理船の導入等の取組を行い生産体制の強化を図っている。

その後も令和 2 年度に第 2 期の浜の活力再生プランを策定し、共同加工利用施設利用によるコスト削減、防除ネットによる食害対策等の生産対策、学校給食への地区産ノリの供出等の PR 活動等を実施してきた。

近年も沖合水の波及等による生長不良や魚類等による食害等があり、本地区のノリ養殖業は厳しい状況が続いている。

新富津漁業協同組合が保有しているノリ網冷凍保管庫は昭和 48 年に整備されたものであるが、適切なメンテナンス等を実施し現在まで問題なく使用することが出来ている。一方で、冷凍保管庫の冷凍機は平成 20 年に整備された、R404A 冷媒を使用した機器である。R404A 冷媒は段階的に製造を縮減していくこととされており、今後冷媒漏れが発生した場合に迅速な修理の対応が出来ず、漁期中に故障した際には、ノリの生産に大きな打撃が生じる懸念があり、施設を改築する必要が生じている。冷凍機が故障等で不調となり庫内温度が上昇した場合、温度上昇により種網の健全度が低下し、最悪の場合にはノリ芽が枯死するため、養殖の継続が困難になるといった問題が発生する。

また、施設の改築を行わない場合には、コンテナ式冷凍庫をレンタルする必要があり、コンテナ式の冷凍庫のレンタル代は月に 17 万円程度／月・台であることから、漁協経営上大きな負担となる。

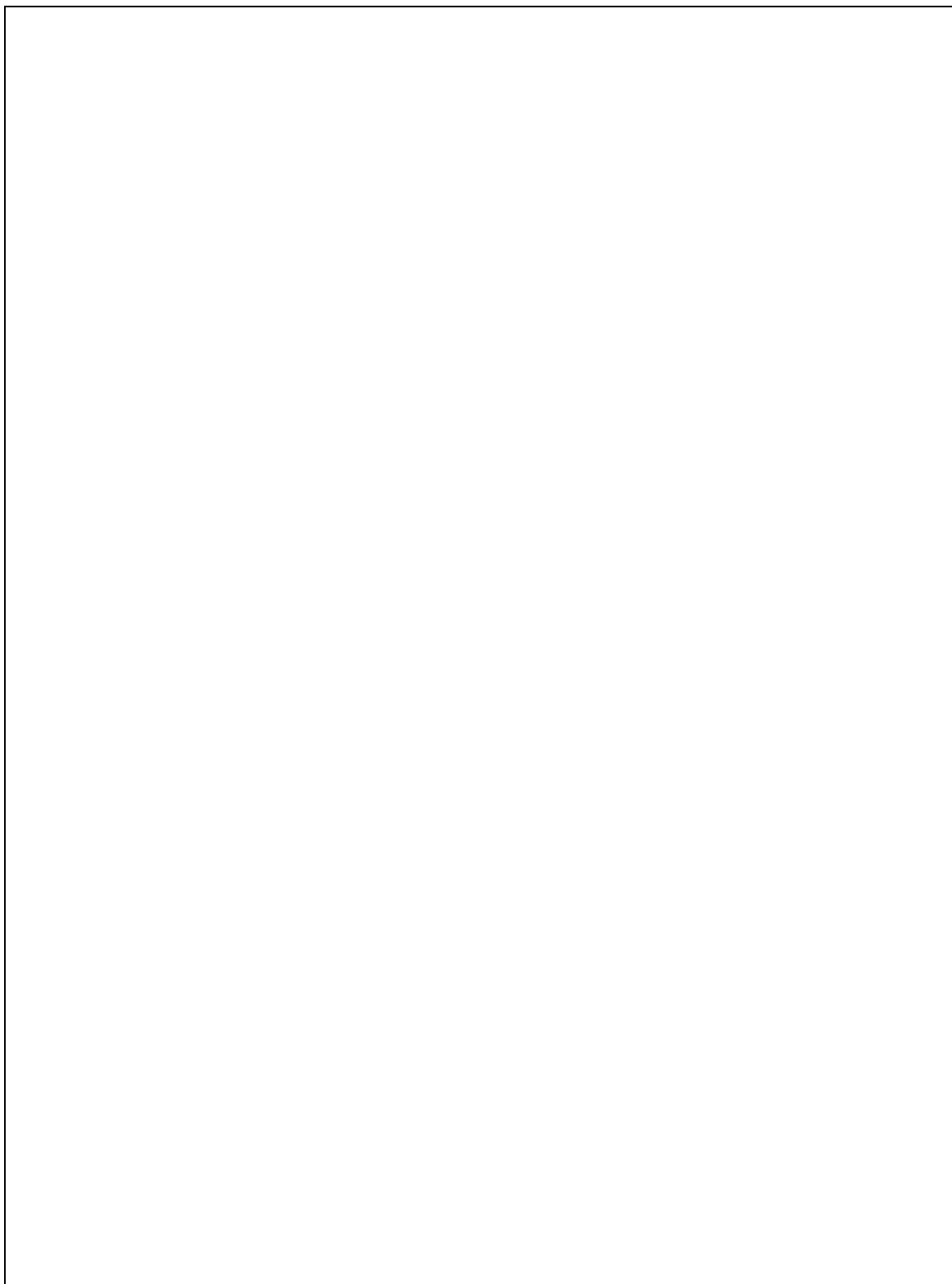
(2) その他の関連する現状等

富津市は、房総半島の中西部にある東京湾に面した市で、人口は令和7年4月1日時点で約3万9千人である。都心から比較的近く、豊かな自然や景観等があるため、観光地としても人気がある。漁業や農業は主要な産業であり、特にノリを始めとした海産物が地域の特産品として有名である。

富津市ではノリ養殖業のほか、アサリなどの採貝漁業や小型機船底びき網漁業など、多様な漁業が営まれており、県内でも有数の多様な漁業種類、対象魚種を有する地区である。観光面では潮干狩りが盛んで、年間10万人程度が訪れている。また、新富津地区ではシングルシード方式によるカキ養殖が行われており、生産されるカキは「新富津漁協江戸前オイスター」として千葉ブランド水産物に認定されている。今後、新富津漁協江戸前オイスターを主軸にした海業を展開することで来訪者を増やし、これを端緒として、伝統ある「江戸前ちば海苔」の魅力も認識してもらい、消費の拡大・地域の活性化を図る必要がある。さらに、令和6年3月、水産庁が「海業の推進に取り組む地区」として当地区を決定した。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

1 漁業収入向上のための取組

(1) ノリ共同加工施設の利用促進

当地区の 29 経営体（令和 6 年時点）のうち、現在 20 経営体は自己所有施設を利用している。現在 9 経営体が共同加工施設を利用しているが、自己所有施設を利用している 20 経営体についても、共同加工施設利用のメリットを説明するなど理解の促進を図ることで施設の利用を促進し、乾海苔生産におけるコスト削減と品質向上によるノリの単価向上を図る。

(2) ノリ網冷凍保管庫の改築

種付けをしたノリ網を保管する冷凍保管庫は、R404A 冷媒を使った機器を使用しており、R404A 冷媒は段階的に製造を縮減していくこととされていることから、冷媒漏れ等故障が生じた場合に、迅速な修理の対応が出来ず、当地区のノリ生産に大きな打撃が生じる可能性がある。そのため、冷凍庫を改築し機能を強化することで、ノリ網の保管環境を向上させ、より良い品質のノリを生産することで乾ノリ 1 枚あたりの平均単価を向上し、平均単価上昇による所得向上を目指す。また、乾海苔に加工しないノリ原藻を冷凍保管庫において保存し、閑散期にばら干し海苔として加工を行い、出荷することで所得向上を図る。

(3) 千葉県水産総合研究センターと連携した環境把握や養殖施設管理

近年の気象・海況の変化に対応するため、漁場環境の把握と変動予測に基づく適切な養殖開始時期の検討及び千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に養殖施設の適切な管理を行う。

(4) 高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」の普及推進

不安定な海況の中でも従来品種より生長が優れ収量性の高い、高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」について、新規利用者が増加するよう講習会等を活用するなどして、普及を推進する。

(5) 食害対策

クロダイ等の食害対策として、ノリ網には防除ネットを設置し、ノリの食害軽減を図る。防除ネットの設置に当たっては、網を浮かせる浮き同士の隙間から食害魚が侵入することが観察によりわかったことから、浮きの配置を工夫するなど、より防除効果の高い設置方法を検討・実施する。

また、千葉県水産総合研究センターや行政機関の指導を受け、効率的な食害対策手法の導入に取り組む。

(6) 高速浸漬処理船の利用

前期プランに引き続き、令和元年度までに導入した高速浸漬処理船 3 隻を利用し、ノリ養殖の障害となる雑藻の除去やノリ芽の疾病予防のための浸漬処理を実施する。

(7) 台風に対する避難手法の利用

前期プランに引き続き、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、各種予報の活用と併せて、「台風に対する避難手法」の積極的な利用を図る。

2 漁業コスト削減のための取組

(1) 省エネ活動の実施

生産者はセーフティネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、定期的な船底清掃や付着生物防止処理等に取り組み、燃油消費量の削減を図る。

また、現在経営体数の減少により、以前よりも漁場を広く使えるようになってきている。このため、ノリ網の設置場所の集約化（漁場の効率的利用）を進めることで、作業の効率化及び移動に係る燃油消費量の削減を図る。

併せて、機能が低下し、電力効率が低下した冷凍庫を改築し、省エネ対応とすることで電気料金等のランニングコストの削減を図る。

3 漁村の活性化のための取組

(1) 担い手の確保等

県や市の担い手確保支援策と連携し、地区への漁業就業の相談があった場合には積極的な受入れや、漁業技術研修の実施を行い、新規就業希望者の確保を図る。

(2) 地元水産物の発信・PR

食育や地場産業の認知普及を図るため、ノリを食べる食文化の継承と新たな千葉海苔のファンの獲得、市内地場産業であるノリ養殖の理解促進を図るため、前期プランに引き続き、市内の小中学校を中心にノリを提供するほか、小学校等での地元産ノリに関する講演等、食育活動も行う。

富津市のふるさと納税の返礼品に応募することにより、ふるさと納税を行う消費者へのPRを行い、漁協ブランドの海苔の認知度や販売量の拡大を図る。

千葉ブランド水産物に認定された「新富津漁協 江戸前オイスター」の生産に引き続き取り組み、イベント等機会を捉えて提供する等、地区の新たな産品として認知度を高める。

プレジャーボート係留施設等を漁港区内に新たに整備し、陸からだけでなく海からも来訪者を呼び込む海業の取組により、地域での交流人口増加を目指す。また、

プレジャーボート係留施設の他に、新富津漁協 江戸前オイスター等の地元産水産物をメインに提供する食堂等を設置し、地元産水産物の消費増進・販路拡大に取り組む。

現在、ふつつ生のりフェアについては、厳しい生産状況が続いており、独自の PR 活動（マルシェの開催）等を実施する。また、海苔すき体験や地びき網体験を積極的に実施し、地区産水産物の PR や、漁業体験を通じた交流促進に取り組む。

(3) 千葉県海苔販売促進基本方針に基づく取組への参加

千葉県漁連・千葉県海苔問屋協同組合・千葉県が平成 29 年 1 月に策定した千葉県海苔販売促進基本方針に基づく取組（意見交換会、PR 活動など）に積極的に参加する。

(3) 資源管理に係る取組

【新富津漁業協同組合のり養殖漁場改善計画】

持続的養殖生産確保法第 4 条に基づき、計画を策定している。

主な内容は、漁場の適切な利用（密植防止など）、養殖資材の適切な撤去・処分、浸漬処理剤の使用基準の遵守などを定めている。

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和8年度）所得向上率（基準年比）3.2%

漁業収入向上のための取組	<p>【ノリ共同加工施設の利用促進】</p> <p>新富津漁協は、共同加工施設利用のメリットを説明するなど、理解の促進を図ることで共同加工施設の利用者数を増やし、加工に係る経費（修繕費、水道光熱費等）のコスト削減を進め、加工作業の合理化を図る。また、共同加工施設の利用により生産者本人と家族で行っていた加工の作業時間が減るため、その分の労力を他のノリ生産に関する作業に振り分けることで、より良いノリを生産することが可能となる。上記の取り組みにより、海苔の品質向上による単価向上を目指す。</p> <p>【ノリ網冷凍保管庫の改築】</p> <p>新富津漁協は、機能が低下したノリ網冷凍保管庫を改築する。ノリ網は保管する場合に冷凍保管されるが、保管中にノリ網の温度が上昇すると、洋上にノリ網を展開した時に生育しない等、保管状況の良し悪しにより大きく影響を受ける。ノリ網冷凍保管庫の改築により、これまで冷凍機の不具合による庫内温度上昇で痛んでいたノリ網が減少するため、品質の良いノリが安定的に生産できる見込みとなる。品質の良いノリを漁期を通じて安定的に生産・供給することで、単価向上と生産者の所得向上を目指す。</p> <p>生産者は、改築したノリ網冷凍保管庫の余剰スペースを利用し、ノリ原藻を冷凍し、閑散期にばら干し加工をして出荷する取組を試験的に行うことで所得の向上を図る。</p> <p>【千葉県水産総合研究センターと連携した環境把握や養殖施設管理】</p> <p>生産者は、近年の気象・海況の変化に対応するため、漁場環境の把握と変動予測に基づく適切な養殖開始時期の検討及び千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に養殖施設の適切な管理を行う。</p> <p>【高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」の普及推進】</p> <p>生産者は、不安定な海況の中でも従来品種より生長が優れ収量性の高い、高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」について、新規利用者が増加するよう講習会等を活用するなどし、導入の促進を図る。</p>
--------------	--

	<p>【食害対策】 生産者は、食害対策として、ノリ網に防除ネットを設置し、ノリの食害軽減を図る。防除ネットの設置に当たっては、より防除効果の高い設置方法（浮子の配置工夫等）を検討する。また、千葉県水産総合研究センターや行政機関の指導を受け、効率的な対策手法の導入に取り組む。</p> <p>【高速浸漬処理船の利用】 生産者は、平成 31 年度までに導入した高速浸漬処理船を利用し、操業の効率化を図る。</p> <p>【台風に対する避難手法の利用】 生産者は、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、各種予報の活用と併せて、「台風に対する避難手法」の積極的な利用を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>【省エネ活動の実施】 生産者は、セーフティネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、定期的な船底清掃や付着生物防止処理等に取り組み、燃油消費量の削減を図る。 また、生産者は、ノリ網の設置場所の集約化（漁場の効率的利用）を進めることで、作業の効率化及び移動に係る燃油消費量の削減を図る。 新富津漁協は、ノリ網冷凍保管庫を改築し、省エネ及びフロン対応とすることで、電気料金等の運用に係るランニングコストの削減を図る。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>【担い手の確保等】 新富津漁協は、県や市の担い手確保支援策と連携し、地区への漁業就業の相談があった場合には積極的な受入れや、漁業技術研修の実施を行い、新規就業希望者の確保を図る。</p> <p>【地元水産物の発信・PR】 新富津漁協は、市内の小学校・保育所等に焼海苔を提供し、食育や地場産業の認知普及を図る。 新富津漁協は、ふるさと納税に参加し、その返礼品として漁協ブランドのノリを提供することで PR を行い、富津産ノリの知名度を向上させ、漁協ブランドのノリの販売量増加を図る。 新富津漁協は、独自の PR 活動（マルシェの開催）等を実施するほか、海苔すき体験や地びき網体験を積極的に実施し、地区産水産物の PR や、漁業体験を通じた交流促進に取り組む。 新富津漁協は、千葉ブランド水産物に認定された「新富津漁協 江戸前</p>

	オイスター」について、安定供給のための育苗装置（オカプシー）を整備し、育苗を試験的に実施する。
活用する支援措置等	浜の活力再生・成長促進交付金（国） 水産業競争力強化緊急施設整備事業（国） 経営体育成総合支援事業（国） 漁業の担い手確保・育成総合対策事業（県） 東京湾漁業総合対策事業（県）

2年目（令和9年度）所得向上率（基準年比）5.1%

漁業収入向上のための取組	<p>【ノリ共同利用施設の利用促進】</p> <p>新富津漁協は、共同加工施設利用のメリットを説明するなど、理解の促進を図ることで共同加工施設の利用者数を増やし、加工に係る経費（修繕費、水道光熱費等）のコスト削減を進め、加工作業の合理化を図る。また、共同加工施設の利用により生産者本人と家族で行っていた加工の作業時間が減るため、その分の労力を他のノリ生産に関する作業に振り分けることで、より良いノリを生産することが可能となる。上記の取り組みにより、海苔の品質向上による単価向上を目指す。</p> <p>【ノリ網冷凍保管庫の改築】</p> <p>新富津漁協は、改築したノリ網冷凍保管庫を運用し、品質の良いノリを漁期を通じて安定的に生産・供給することで、単価向上と生産者の所得向上を目指す。</p> <p>生産者は、冷凍機等の整備を行ったノリ網冷凍保管庫の余剰スペースを利用し、閑散期にばら干し加工をして出荷する取組を行うことで所得の向上を目指す。</p> <p>【千葉県水産総合研究センターと連携した環境把握や養殖施設管理】</p> <p>生産者は、近年の気象・海況の変化に対応するため、漁場環境の把握と変動予測に基づく適切な養殖開始時期の検討及び千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に養殖施設の適切な管理を行う。</p> <p>【高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」の普及推進】</p> <p>生産者は、不安定な海況の中でも従来品種より生長が優れ収量性の高い、高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」について、新規利用者が増加するよう講習会等を活用するなどし、導入の促進を図る。</p>
--------------	--

	<p>【食害対策】 生産者は、食害対策として、ノリ網に防除ネットを設置し、ノリの食害軽減を図る。防除ネットの設置に当たっては、より防除効果の高い設置方法（浮子の配置工夫等）を検討する。また、千葉県水産総合研究センターや行政機関の指導を受け、効率的な対策手法の導入に取り組む。</p> <p>【高速浸漬処理船の利用】 生産者は、平成 31 年度までに導入した高速浸漬処理船を利用し、操業の効率化を図る。</p> <p>【台風に対する避難手法の利用】 生産者は、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、各種予報の活用と併せて、「台風に対する避難手法」の積極的な利用を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>【省エネ活動の実施】 生産者は、セーフティネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、定期的な船底清掃や付着生物防止処理等に取り組み、燃油消費量の削減を図る。 新富津漁協は、改築したノリ網冷凍保管庫を運用し、電気代等の運用に係るランニングコストの削減を図る。 生産者は、ノリ網の設置場所の集約化（漁場の効率的利用）を進めることで、作業の効率化及び移動に係る燃油消費量の削減を図る。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>【担い手の確保】 新富津漁協は、県や市の担い手確保支援策と連携し、地区への漁業就業の相談があった場合には積極的な受入れや、漁業技術研修の実施を行い、新規就業希望者の確保に努める。</p> <p>【地元水産物の発信・PR】 新富津漁協は、市内の小学校・保育所等に焼海苔を提供し、食育や地場産業の認知普及を図る。 新富津漁協は、ふるさと納税に参加し、その返礼品として漁協ブランドのノリを提供することで PR を行い、富津産ノリの知名度を向上させ、漁協ブランドのノリの販売量増加を目指す。 新富津漁協は、独自の PR 活動（マルシェの開催）等を実施するほか、海苔すき体験や地びき網体験を積極的に実施し、地区産水産物の PR や、漁業体験を通じた交流促進に取り組む。 新富津漁協は、千葉ブランド水産物に認定された「新富津漁協 江戸前</p>

	<p>オイスター」について、令和8年度に導入した育苗装置を稼働させ、安定的な種苗の確保を図る。</p> <p>新富津漁協は、地域の交流人口増加のため、プレジャーボート係留施設等を整備する。</p>
活用する支援措置等	<p>浜の活力再生・成長促進交付金（国）</p> <p>漁港機能増進事業（国）</p> <p>経営体育成総合支援事業（国）</p> <p>漁業の担い手確保・育成総合対策事業（県）</p> <p>東京湾漁業総合対策事業（県）</p>

3年目（令和10年度）所得向上率（基準年比）6.9%

漁業収入向上のための取組	<p>【ノリ共同利用施設の利用促進】</p> <p>新富津漁協は、共同加工施設利用のメリットを説明するなど、理解の促進を図ることで共同加工施設の利用者数を増やし、加工に係る経費（修繕費、水道光熱費等）のコスト削減を進め、加工作業の合理化を図る。また、共同加工施設の利用により生産者本人と家族で行っていた加工の作業時間が減るため、その分の労力を他のノリ生産に関する作業に振り分けることで、より良いノリを生産することが可能となる。上記の取り組みにより、海苔の品質向上による単価向上を目指す。</p> <p>【ノリ網冷凍保管庫の改築】</p> <p>新富津漁協は、改築したノリ網冷凍保管庫を運用し、品質の良いノリを漁期を通じて安定的に生産・供給することで、単価向上と生産者の所得向上を目指す。</p> <p>生産者は、改築したノリ網冷凍保管庫の余剰スペースを利用し、閑散期にばら干し加工をして出荷する取組を行うことで所得の向上を目指す。</p> <p>【千葉県水産総合研究センターと連携した環境把握や養殖施設管理】</p> <p>生産者は、近年の気象・海況の変化に対応するため、漁場環境の把握と変動予測に基づく適切な養殖開始時期の検討及び千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に養殖施設の適切な管理を行う。</p> <p>【高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」の普及推進】</p> <p>生産者は、不安定な海況の中でも従来品種より生長が優れ収量性の高い、高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」について、新規利用者が増加</p>
--------------	---

	<p>するよう講習会等を活用するなどし、導入の促進を図る。</p> <p>【食害対策】 生産者は、食害対策として、ノリ網に防除ネットを設置し、ノリの食害軽減を図る。防除ネットの設置に当たっては、より防除効果の高い設置方法（浮子の配置工夫等）を検討し、効果が高いものについては普及を進める。また、千葉県水産総合研究センターや行政機関の指導を受け、効率的な対策手法の導入に取り組む。</p> <p>【高速浸漬処理船の利用】 生産者は、平成 31 年度までに導入した高速浸漬処理船を利用し、操業の効率化を図る。</p> <p>【台風に対する避難手法の利用】 生産者は、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、各種予報の活用と併せて、「台風に対する避難手法」の積極的な利用を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>【省エネ活動の実施】 生産者は、セーフティネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、定期的な船底清掃や付着生物防止処理等に取り組み、燃油消費量の削減を図る。 新富津漁協は、改築したノリ網冷凍保管庫を運用し、電気代等の運用に係るランニングコストの削減を図る。 生産者は、ノリ網の設置場所の集約化（漁場の効率的利用）を進めることで、作業の効率化及び移動に係る燃油消費量の削減を図る。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>【担い手の確保】 新富津漁協は、県や市の担い手確保支援策と連携し、地区への漁業就業の相談があった場合には積極的な受入れや、漁業技術研修の実施を行い、新規就業希望者の確保に努める。</p> <p>【地元水産物の発信・PR】 新富津漁協は、市内の小学校・保育所等に焼海苔を提供し、食育や地場産業の認知普及を図る。 新富津漁協は、ふるさと納税に参加し、その返礼品として漁協ブランドのノリを提供することで PR を行い、富津産ノリの知名度を向上させ、漁協ブランドのノリの販売量増加を目指す。 新富津漁協は、独自の PR 活動（マルシェの開催）等を実施するほか、</p>

	<p>海苔すき体験や地びき網体験を積極的に実施し、地区産水産物の PR や、漁業体験を通じた交流促進に取り組む。</p> <p>新富津漁協は、千葉ブランド水産物に認定された「新富津漁協 江戸前オイスター」について、令和 8 年度に導入した育苗装置を引き続き稼働させ、安定的な種苗の確保に努める。また、確保した種苗を使い新富津漁協 江戸前オイスターの安定生産を行う。</p> <p>新富津漁協は、カキを提供する飲食施設を整備し、地区で生産された新富津漁協 江戸前オイスターを提供することで地区産の水産物の消費拡大に取り組む。</p> <p>新富津漁協は、整備したプレジャーボート係留施設を運用し、地区での交流人口を増加させるほか、係留施設へ訪れた来訪客へ漁協ブランドのノリを販売する等により、新たな新富津産ノリのファンの拡大を目指す。</p>
活用する支援措置等	<p>浜の活力再生・成長促進交付金（国）</p> <p>経営体育成総合支援事業（国）</p> <p>漁業の担い手確保・育成総合対策事業（県）</p> <p>東京湾漁業総合対策事業（県）</p>

4 年目（令和 1 1 年度）所得向上率（基準年比）8.7%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>【ノリ共同利用施設の利用促進】</p> <p>新富津漁協は、共同加工施設利用のメリットを説明するなど、理解の促進を図ることで共同加工施設の利用者数を増やし、加工に係る経費（修繕費、水道光熱費等）のコスト削減を進め、加工作業の合理化を図る。また、共同加工施設の利用により生産者本人と家族で行っていた加工の作業時間が減るため、その分の労力を他のノリ生産に関する作業に振り分けることで、より良いノリを生産することが可能となる。上記の取り組みにより、海苔の品質向上による単価向上を目指す。</p> <p>【ノリ網冷凍保管庫の改築】</p> <p>新富津漁協は、改築したノリ網冷凍保管庫を運用し品質の良いノリを漁期を通じて安定的に生産・供給することで、単価向上と生産者の所得向上を目指す。</p> <p>生産者は、改築したノリ網冷凍保管庫の余剰スペースを利用し、閑散期にばら干し加工をして出荷する取組を行うことで所得の向上を目指す。</p> <p>【千葉県水産総合研究センターと連携した環境把握や養殖施設管理】</p> <p>生産者は、近年の気象・海況の変化に対応するため、漁場環境の把握と</p>
---------------------	--

	<p>変動予測に基づく適切な養殖開始時期の検討及び千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に養殖施設の適切な管理を行う。</p> <p>【高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」の普及推進】 生産者は、不安定な海況の中でも従来品種より生長が優れ収量性の高い、高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」について、新規利用者が増加するよう講習会等を活用するなどし、導入の促進を図る。</p> <p>【食害対策】 生産者は、食害対策として、ノリ網に防除ネットを設置し、ノリの食害軽減を図る。防除ネットの設置に当たっては、より防除効果の高い設置方法（浮子の配置工夫等）を検討し、効果が高いものについては普及を進める。また、千葉県水産総合研究センターや行政機関の指導を受け、効率的な対策手法の導入に取り組む。</p> <p>【高速浸漬処理船の利用】 生産者は、平成 31 年度までに導入した高速浸漬処理船を利用し、操業の効率化を図る。</p> <p>【台風に対する避難手法の利用】 生産者は、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、各種予報の活用と併せて、「台風に対する避難手法」の積極的な利用を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>【省エネ活動の実施】 生産者は、セーフティネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、定期的な船底清掃や付着生物防止処理等に取り組み、燃油消費量の削減を図る。 新富津漁協は、改築したノリ網冷凍保管庫を運用し、電気代等の運用に係るランニングコストの削減を図る。 生産者は、ノリ網の設置場所の集約化（漁場の効率的利用）を進めることで、作業の効率化及び移動に係る燃油消費量の削減を図る。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>【担い手の確保】 新富津漁協は、県や市の担い手確保支援策と連携し、地区への漁業就業の相談があった場合には積極的な受入れや、漁業技術研修の実施を行い、新規就業希望者の確保に努める。</p>

	<p>【地元水産物の発信・PR】</p> <p>新富津漁協は、市内の小学校・保育所等に焼海苔を提供し、食育や地場産業の認知普及を図る。</p> <p>新富津漁協は、ふるさと納税に参加し、その返礼品として漁協ブランドのノリを提供することでPRを行い、富津産ノリの知名度を向上させ、漁協ブランドのノリの販売量増加を目指す。</p> <p>新富津漁協は、独自のPR活動（マルシェの開催）等を実施するほか、海苔すき体験や地びき網体験を積極的に実施し、地区産水産物のPRや、漁業体験を通じた交流促進に取り組む。</p> <p>新富津漁協は、千葉ブランド水産物に認定された「新富津漁協 江戸前オイスター」について、令和8年度に導入した育苗装置を引き続き稼働させ、安定的な種苗の確保に努める。また、確保した種苗を使い新富津漁協 江戸前オイスターの安定生産を行う。</p> <p>新富津漁協は、整備したカキを提供する飲食施設において、地区で生産された新富津漁協 江戸前 オイスターを提供することで地区産の水産物の消費拡大に取り組む。</p> <p>新富津漁協は、整備したプレジャーボート係留施設を運用し、地区での交流人口を増加させるほか、係留施設へ訪れた来訪客へ漁協ブランドのノリを販売する等により、新たな新富津産ノリのファンの拡大を目指す。</p>
活用する支援措置等	<p>浜の活力再生・成長促進交付金（国）</p> <p>経営体育成総合支援事業（国）</p> <p>漁業の担い手確保・育成総合対策事業（県）</p> <p>東京湾漁業総合対策事業（県）</p>

5年目（令和12年度）所得向上率（基準年比）10.5%

漁業収入向上のための取組	<p>【ノリ共同利用施設の利用促進】</p> <p>新富津漁協は、共同加工施設利用のメリットを説明するなど、理解の促進を図ることで共同加工施設の利用者数を増やし、加工に係る経費（修繕費、水道光熱費等）のコスト削減を進め、加工作業の合理化を図る。また、共同加工施設の利用により生産者本人と家族で行っていた加工の作業時間が減るため、その分の労力を他のノリ生産に関する作業に振り分けることで、より良いノリを生産することが可能となる。上記の取り組みにより、海苔の品質向上による単価向上を目指す。</p> <p>【ノリ網冷凍保管庫の改築】</p> <p>新富津漁協は、改築したノリ網冷凍保管庫を運用し品質の良いノリを</p>
--------------	---

	<p>漁期を通じて安定的に生産・供給することで、単価向上と生産者の所得向上を目指す。</p> <p>生産者は、改築したノリ網冷凍保管庫の余剰スペースを利用し、閑散期にばら干し加工をして出荷する取組を行うことで所得の向上を目指す。</p> <p>【千葉県水産総合研究センターと連携した環境把握や養殖施設管理】</p> <p>生産者は、近年の気象・海況の変化に対応するため、漁場環境の把握と変動予測に基づく適切な養殖開始時期の検討及び千葉県水産総合研究センターの発行する「ノリ養殖通報」を参考に養殖施設の適切な管理を行う。</p> <p>【高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」の普及推進】</p> <p>生産者は、不安定な海況の中でも従来品種より生長が優れ収量性の高い、高水温耐性ノリ品種「ちばの輝き」について、新規利用者が増加するよう講習会等を活用するなどし、導入の促進を図る。</p> <p>【食害対策】</p> <p>生産者は、食害対策として、ノリ網に防除ネットを設置し、ノリの食害軽減を図る。防除ネットの設置に当たっては、より防除効果の高い設置方法（浮子の配置工夫等）を検討し、効果が高いものについては普及を進める。また、千葉県水産総合研究センターや行政機関の指導を受け、効率的な対策手法の導入に取り組む。</p> <p>【高速浸漬処理船の利用】</p> <p>生産者は、平成 31 年度までに導入した高速浸漬処理船を利用し、操業の効率化を図る。</p> <p>【台風に対する避難手法の利用】</p> <p>生産者は、近年の大型台風に対する適切な対策を講じるため、各種予報の活用と併せて、「台風に対する避難手法」の積極的な利用を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>【省エネ活動の実施】</p> <p>生産者は、セーフティネットの加入により燃油高騰時の経営リスクに備えるとともに、定期的な船底清掃や付着生物防止処理等に取り組み、燃油消費量の削減を図る。</p> <p>新富津漁協は、改築したノリ網冷凍保管庫を運用し、電気代等の運用に係るランニングコストの削減を図る。</p>

	<p>生産者は、ノリ網の設置場所の集約化（漁場の効率的利用）を進めることで、作業の効率化及び移動に係る燃油消費量の削減を図る。</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>【担い手の確保】</p> <p>新富津漁協は、県や市の担い手確保支援策と連携し、地区への漁業就業の相談があった場合には積極的な受入れや、漁業技術研修の実施を行い、新規就業希望者の確保に努める。</p> <p>【地元水産物の発信・PR】</p> <p>新富津漁協は、市内の小学校・保育所等に焼海苔を提供し、食育や地場産業の認知普及を図る。</p> <p>新富津漁協は、ふるさと納税に参加し、その返礼品として漁協ブランドのノリを提供することで PR を行い、富津産ノリの知名度を向上させ、漁協ブランドのノリの販売量増加を目指す。</p> <p>新富津漁協は、独自の PR 活動（マルシェの開催）等を実施するほか、海苔すき体験や地びき網体験を積極的に実施し、地区産水産物の PR や、漁業体験を通じた交流促進に取り組む。</p> <p>新富津漁協は、千葉ブランド水産物に認定された「新富津漁協 江戸前オイスター」について、令和8年度に導入した育苗装置を引き続き稼働させ、安定的な種苗の確保に努める。また、確保した種苗を使い新富津漁協 江戸前オイスターの安定生産を行う。</p> <p>新富津漁協は、整備したカキを提供する飲食施設において、地区で生産された新富津漁協 江戸前オイスターを提供することで地区産の水産物の消費拡大に取り組む。</p> <p>新富津漁協は、整備したプレジャーボート係留施設を運用し、地区での交流人口を増加させるほか、係留施設へ訪れた来訪客へ漁協ブランドのノリを販売する等により、新たな新富津産ノリのファンの拡大を目指す。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>浜の活力再生・成長促進交付金（国）</p> <p>経営体育成総合支援事業（国）</p> <p>漁業の担い手確保・育成総合対策事業（県）</p> <p>東京湾漁業総合対策事業（県）</p>

(5) 関係機関との連携

富津市内には千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所があり、身近にノリ養殖技術の相談・指導を受けられる体制が整っている。また、富津市やノリの共販・加工販売を行う千葉県漁連、種苗を供給する公益財団法人千葉県水産振興公社と積極的に連携を図る。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの実施状況及び効果の発現状況を自ら評価し、それを踏まえた取組の改善を検討するため、新富津漁協及び行政機関等との会議を開催し、自己評価案を審議することで、次年度の取組の改善等につなげる。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上 10%以上	基準年
	目標年

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

① 所得向上の取組に係る成果目標

ノリの平均単価向上 (地区平均 2.5%向上)	基準年	5 中 3 平均 (令和 2~6 年度)	: 18.3 円/枚
	目標年	令和 12 年度	: 18.7 円/枚
ノリの生産枚数の増加 (1 経営体当たり)	基準年	5 中 3 平均 (令和 2~6 年度)	: 1,037 千枚
	目標年	令和 12 年度	: 1,251 千枚

② 漁村活性化の取組に係る成果目標

ふるさと納税の返礼品実績 (返礼品枚数) の向上	基準年	5 中 3 平均 (令和 2~6 年度)	: 32,663 枚
	目標年	令和 12 年度	: 35,934 枚

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

① 所得向上の取組に係る成果目標

【ノリの平均単価向上 (2.5%向上)】

ノリ養殖に不適な沖合水の波及や、クロダイ等による食害の影響等により、当地区はノリ養殖にとって厳しい環境にあるが、高水温耐性品種の導入促進や、防除ネットによる食害対策等を講じて高品質のノリの生産量を維持するとともに、ノリ共同加工施設の利用促進等により全体の品質を向上させることで、令和 12 年度までに 2.5%の単価の向上を図る。ノリの単価は全国生産状況等に大きく影響を受けて変動するが、過去 5 年 (令和 2~6 年度) の 5 中 3 で平均単価を算出し、これを基準とした。

【ノリの生産枚数の増加 (1 経営体あたり)】

本地区は富津岬南側をノリの養殖漁場として利用しており、地形的に元来沖合水の影響を受けやすい環境にある。近年は高水温による成長不良や、冬季の水温低下の遅れによりクロダイ等の食害が長期化している。さらに、経営体も減少が続いており、防除ネット等の種々の対策が必要となっている。そのため、効率的な漁場活用や食害対策等の各種の生産対策を講じることで、1 経営体あたりの生産枚数を増加させることで所得の向上に貢献する。

② 漁村活性化の取組に係る成果目標

【ふるさと納税の返礼品実績 (返礼品枚数)】

機会を捉えた PR 活動への参加や、整備するプレジャーボート施設での地区産ノリの販売を通して、地区産ノリの知名度を向上することでふるさと納税の返礼品として供出するノリの枚数を、基準年から 10%向上させることを目標として設定した。ふるさと納税の返礼品の実績値として、過去 5 年 (令和 2~6 年度) の 5 中 3 の平均枚数で平均枚数を算出し、これを基準とした。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
浜の活力再生・成長促進 交付金（国）	漁業支出の軽減を図り、漁業所得を向上させるため、生産性の向上や省力・省コスト化等に資する漁業用機器等を導入するため、事業を活用予定。
水産業競争力強化緊急施設整備事業（国）	産地水産業の競争力強化を目指すため、生産の効率化や販売力の強化等を図るために必要となる漁業用機器等を導入する。
漁港機能増進事業（国）	漁港のストック効果の最大化・海業の推進を図るため、漁港の安全対策向上や、漁港ストックの利用適正化等に資する施設整備を行う。
経営体育成総合支援事業（国）	漁業・漁村を支える人材の確保・育成を強化するため、研修等を通じた就業・定着支援を行う
漁業の担い手確保・育成 総合対策事業（県）	漁業の担い手確保のため、研修等の支援を通じた就業・定着支援を行う
東京湾漁業総合対策事業（県）	東京湾漁業振興のため、漁協が取り組む生産基盤の整備等を図るため活用する